

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名 上砂川町

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	介護認定率を見ると、開始年度は減少(18→17.4%)したものの平成29年度より再び上昇(18.2%)。コロナ禍の影響もあり介護申請数が増え、認定率は22.9%と上昇しており、連合管内では浦臼23.0%に次いで高い。通いの場、及び出て来られない方へのサービスにより要介護になることを防ぐ必要がある。	送迎付きの転倒予防教室「足若の日」を開催します。 (事業名:「足若の日」、「ふらっとヘルシー体操」)	年度末アンケートで体力を維持・改善している人の割合80%以上	足若の日:23回/24回 実30人(延345人) ヘルシー体操:24回/24回 実60人(延819人) 足若の日は、会場の都合により1回休止となったが、ヘルシー体操は予定通り実施できた。令和3年度より実人数は減少しているが、他の介護予防事業の参加数が微増しており、地区での活動(百歳体操、ポールウォーキング等)と全町での運動(肩腰らくらくボール運動、ふらっと運動講座、ダンス講座)など自身の体調と都合に合わせて、良いように調整している様子が伺える。 年度末アンケート(R4年度)は、2015 三井記念病院 整形外科「ロコモ5」を参照にしたオリジナル版を行い、1年前と比べ体力の変化を尋ねた結果、6問中4問で81～89%が維持・向上を感じていた。残りの2問でも70%には達しており、平均目標の8割を上回った。	◎	新型コロナウイルス感染症対策をしながらの実施となり、保健師マンパワー不足の中、臨時保健師や健康運動指導士、個人介助ボランティアの協力を得て実施している。通年で、送迎付きで行う事業として、十分な活用が図られ、効果も出ている。このまま継続実施する。
①自立支援・介護予防・重度化防止		身近な「地域集いの場」で、サポーターが中心となって、いきいき百歳体操を毎週開催します。	65歳以上の人口の1割以上の参加率	百歳体操は、9団体が実施。参加率8.0%(R3年度8.6%)と1割には満たないが、国が目標に掲げている8%と同等。ますますカード参加率は、8.2%、R3年度7.9%、R2年度7.6%、R1年度6.5%から徐々に増加している。	◎	ますますカード事業を継続し、参加率8%の継続を目指す。
①自立支援・介護予防・重度化防止		リハビリ専門職等が、加齢や疾病による身体機能の低下を、タイムリーかつ集中的に回復に向けて支援します。	転倒不安感尺度かつ主観的健康観で、維持・改善している人の割合80%以上	ケースによって、柔軟に間隔や回数を設定し、利用者の73.7%が改善・維持となっている。 ココロ 実施回数:20回 年度内実施者:35人 年度内終了者:19人 (単発～2人、次年度継続～13人、中断～1人) 評価:改善 12人 維持 2人 低下 5人(意欲低下、疾患等)	◎	効果的に活用されているケースでは維持・改善となっているが、そうっていないケースもあり、導入時の意思確認をしっかり行い、効果的な関わりとなるよう今後も継続実施する。
①自立支援・介護予防・重度化防止	ボランティア養成講座を修了し、ボランティア登録した人数に対して、従事しているボランティア数が少ない。	介護予防・認知症・生活支援ボランティア養成講座の実施により、就労活動のきっかけづくりを行います。	高齢者に占めるボランティア従事者割合6.6%	・ケアサポーター養成講座の実施 ・活動の場の提供(運動教室、認知症カフェなど) ・ボランティアポイント制度の実施 ポイント管理(集約は社会福祉協議会) ・65歳以上高齢者数に占めるボランティア従事者割合は6.7%と数値目標は達成できた。 ※活動者数/65歳以上高齢者数(R5.3月末現在) ・施設サロンとして屋外活動(畑活動略して「畑活」)を施設と協力して実施し、従事できる場を増やした。	◎	・活動の中断を余儀なくされるボランティアが目立っていた。後期高齢者のボランティアが多い中、今後は活動者数の保持や活動できる場の拡充・維持が行える環境を整えていくことが必要。また、これまで就労活動のきっかけづくりを行ってきたが、今後は就労活動につながる支援を目指す。
①自立支援・介護予防・重度化防止	介護給付費の増加や介護度が重度化している現状がある。	自立支援に資するケアマネジメント支援会議を定例開催します。 (75歳未満かつ事業対象者～要介護2)	自立支援型会議の実施割合100%	・自立支援に資するケアマネジメント支援会議は、予定通り全て実施することができた。課題であった「他の職種の充実」は今年度困難であった。	◎	「他の職種の充実」においては令和4年度も困難であったが、令和5年度はPTが参加予定。今後は自立支援会議の定着から蓄積された地域課題やアドバイスを基に介護度の維持改善を目指す。
①自立支援・介護予防・重度化防止	認知症に対する理解不足や認知症本人とその家族が地域において参加できる場所が少ない。	認知症の理解促進により、認知症の人と共生できる体制をつくります。 (「認知症カフェ」開催など)	平均参加数に占める認知症とその家族の参加30%	・認知症カフェ(定例開催)における平均参加数に占める認知症とその家族の参加率は29.5%と目標数値に近い参加率で維持することができた。 ・認知症カフェの一環で、地域と施設の交流を目的とした施設サロンの位置づけとして屋外活動(畑活動略名「畑活」)を実施。	◎	・認知症本人やその家族の参加率については、目標数値の達成に向けて、対応を継続していく必要がある。また、認知症者の対応に偏見を持っている住民が少ないことから、今後は認知症の人との「共生」に対する理解について対応を継続していく。 ・比較的感染リスクが少ない中で「畑活」自体は実施できたが、施設側の配慮により入居者との交流が困難な状況であったことから今後は、交流できるよう時期や内容について施設と検討しながら交流できるよう目指す。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名 空知中部広域連合

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要なサービスを提供できるようにするため、北海道では「第5期介護給付適正化計画」を策定し、保険者と一体となって取り組む方針としており、当連合としても重点事項として位置付けられている5項目について実施していく。	認定調査状況の適正化	調査票全件点検の実施	調査票全件である1,259件の点検を実施し、テキストに基づき、不整合がないか確認し、整合性のある認定調査となるよう認定調査員への指導を行った。	◎	調査事項と特記事項の整合性が図られていない調査票が見受けられることから、今後も認定調査の平準化をはかるため、調査員に対する指導を継続していく。
②給付適正化		ケアプランの点検	隔年訪問実施	5事業所計15件について、自立支援に資する適切なケアプランであるか等に着目し、ケアプラン点検を行った。	◎	利用者の自立支援に資する適切なプランであるか等に着目し実施しており、今後も継続していく。
②給付適正化		住宅改修及び福祉用具購入の点検	申請書類の全件点検、必要に応じた現地確認の実施	住宅改修及び福祉用具購入の申請時に全件点検を行い、住宅改修については事後訪問調査を行った。	◎	不適切な改修の申請の場合は、申請者やケアマネージャーに制度を説明し理解を図っており、今後も継続していく。
②給付適正化		医療情報との突合及び縦覧点検	毎月点検実施	国保連合会に委託し、帳票をもとに点検実施した。	◎	国保連合会への委託と国保連合会帳票を使用した点検を実施しており、今後も継続していく。
②給付適正化		介護給付費通知	年1回以上の通知の実施	年1回(8月)に全件通知を行った。	◎	計画通り実施しており、今後も継続していく。